



研修会レポート

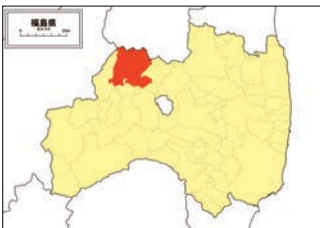
「蔵のまち喜多方」の文化・歴史を活かしたまちづくり ～福島県喜多方市～

笠間市都市建設部都市計画課 主事 小 薬 翔太郎
主事 清 水 和 晃

平成26年7月18日、公益財団法人都市計画協会主催の第36回まちづくり拝見研修会に参加しました。ここでは、視察で学んだ福島県喜多方市のまちづくりについてご紹介いたします。

小荒井地区では中心市街地商店街の賑わいを取り戻すため、老朽化したアーケードを撤去し、景観協定により各店が修景をすることで、良好な景観を形成しています。

■福島県喜多方市の概要



喜多方市は、会津盆地北部に位置し、会津地方の北部であったことから古くから北方（きたかた）と呼ばれてきました。蔵の数が約4,100棟、ラーメン店数は約120店舗と、どちらも人口比日本一を誇る『蔵とラーメンのまち』として有名です。

■蔵を活かしたまちづくり

「男40にして蔵の一つも建てられないようでは一人前でない」喜多方では昔から言われている言葉だそうです。喜多方は良質な水、米、麦、大豆に恵まれており、酒や味噌、醤油などの醸造業が栄え、それを保存するため多くの蔵が建てられました。明治13年の大火の際には多くの蔵作りの建物が焼け残り、家財を守る建物として注目を集めました。それ以降、豪商達が競って豪華な蔵を建てるようになり、現在では約4,100棟もの蔵が残されており、そのうち32棟が国の登録有形文化財となっています。

喜多方市では、『喜多方蔵之地図』というパンフレットの作成や、シルバーガイドの活用により、蔵を見て歴史や文化を学びながら、買い物や食事を楽しめるような仕組みづくりに力を入れています。



小荒井地区

現地視察では、倉庫用の蔵だけでなく店舗（店蔵）や住まい（座敷蔵）、漆器職人の作業場（塗り蔵）、煉瓦蔵など、多様な蔵を見てまわりながら物産店やカフェなどを楽しむことができました。

■市役所通りの整備（沿道整備街路事業）

市役所通り（都市計画道路坂井四ツ谷線）は、蔵をはじめとした歴史的資源が多い小荒井地区・小田付地区の中間に位置しており、観光の拠点となる位置づけの路線となっています。しかし、以前は幅員が狭く観光バスのすれ違いに苦慮しており、歩行者等の安全も確保できない状況であり、東西交通の確保と危険回避のための早急な整備が求められていました。



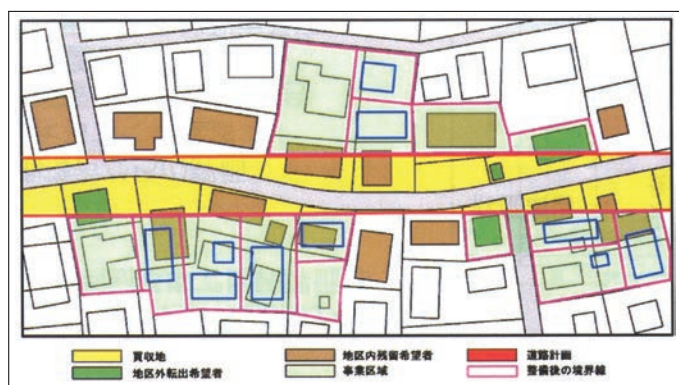
蔵を利用した観光案内所



整備前の坂井四ツ谷線

坂井四ツ谷線の整備にあたり、平成17年に地権者を中心に“市役所通りを良くする会”が設立され、その後、地権者以外からもまちづくりに関する意見が多く寄せられました。その関心度の高さから、平成18年には会津喜多方商工会議所を中心に“市役所通りまちづくり検討委員会”が設立され、行政と市民の話し合いの場がつけられました。市民との話し合いにより、歴史・文化の継承、修景・景観整備などが盛り込まれ、『観光情報ゾーン』『生活賑わいゾーン』『歴史文化ゾーン』に区分した個性に応じた整備が行われることとなりました。

幸町工区は『観光情報ゾーン』として、幅員20mの街路を市街地と一体的に整備を行うために『沿道整備街路事業』を採用して整備を行いました。沿道整備街路事業は、事業区域の設定要件や面積要件がなく、事業範囲を敷地単位で設定可能であり、地権者の多様なニーズへの対応がしやすいという特徴があります。これにより、道路の早期整備を促進するとともに市街地の一体的整備が図られ、短期間かつ経済的な整備を可能としました。



沿道整備街路事業イメージ



整備後の坂井四ツ谷線

■まちづくりにおけるNPO法人の役割

地方都市の抱える共通の課題として人口減少が挙げられます。喜多方市でも人口減少が深刻な問題となっており、若者の働ける場と安心して子育てができる環境が必要とされています。“NPO法人まちづくり喜多方”では、

人口減少がもたらす課題として、地域コミュニティの分断を挙げ、『生きる』『繋ぐ』『学ぶ』『継承する』の4つのテーマをもとに、地域コミュニティの再生をはかっています。

主に首都圏在学の学生やI・Uターン希望者等、若年層をターゲットとし、地元住民との交流を生み出して地域コミュニティに受け入れていくことで、交流から移住に繋がる社会的な仕組みづくりを行っています。たとえば、空き家をシェアハウスにして24時間500円で利用できるようにする取り組みや、地域の資源を再活用した働き方を創り出す創業支援などを行い、農業や田舎に興味のある学生や若者が訪れやすい環境を作り、大都市とは違った価値観やゆとりと生きがいのある暮らしを提供しています。



空き家を利用したシェアハウス

■おわりに

喜多方市は福島県にあるため、原発事故の風評被害がいまだにあるようですが、地域住民や民間団体が主体的に活動を行っており、地域らしさを活かしたまちづくりが積極的に行われている力強いまちという印象でした。

現地視察の際、シルバーガイドが細かく説明をしてくださったほか、途中で雨が降ってきたときに無料貸出の傘が観光施設ごとに置かれているのを知り、観光に来た方々への細かい配慮や迎え入れる体制づくりに感銘を受けました。民間が主体的にまちづくりに取り組める体制を作り、まちづくりの意識をまち全体に浸透させることが、市民の地元に対する愛着につながり、いつまでも住んでいたい、何度も訪れてみたいと思うような、まちの魅力につながっていくのだと実感しました。

今回の研修は、歴史や文化を活かし、交流やおもてなしを大切にした様々な取り組みを学ぶことができ、大変勉強になりました。今後の業務の参考にするとともに、これからの喜多方市の動向にも注目していきたいと思いをします。